

市では、文化の発展に貢献された方をたたえ、一層のご活躍を願って文化賞の贈呈を行っています。今年は、大谷和正氏と御坊少年少女合唱団が文化賞の栄に輝きました。



おおたに かずまさ  
大谷 和正 氏

大谷氏は、平成8年に地域の強い要望に応える形で、当時無医地区であった名田町に小児科・内科を中心とした「おおたにクリニック」を開業された。

以来、高齢者など住民に親しまれ信頼される医師として、地域医療に貢献する一方、専門とする小児神経学分野、特にてんかんや発達障害児に対する医療・保健の充実、早期発見と相談・援助体制の向上に努められ、この分野の第一人者として当地域のみならず県内の医療をリードされてきた。また、障害児通園施設の開設、5歳児健診事業の予算化などに関して、医療的側面から助言・支援するとともに、現在に至るまで、通園施設におい

ては相談業務・健診を担当し、5歳児健診にも出務されている。特に障害児保育専任医は保育園において、一人の園児について時間をかけて保育士・保護者・医師が話し合うものであり、当時としては全国的にも画期的な取り組みであった。

平成14年から令和2年までは日高医師会母子保健担当理事や学校医部会会長として、小・中学校における喫煙防止出前授業を継続しつつ、成人式における喫煙防止の呼びかけの取り組みを始めるなど、医師会における喫煙防止事業を積極的に推進され、管内市町と連携した保健教育や予防医療に多大な貢献をされてきた。また、平成21年の新型インフルエンザ流行時のワクチン接種、平成29年の小・中学校でのノロウイルス感染に際しては担当理事として、保健所や市との調整・連携・支援に献身的に尽力された。このように、地域医療や学校保健・母子保健、障害児・者への支援など、広範囲にわたり貢献されました。



ごほうしょうねんしょうじょがっしょうだん  
御坊少年少女合唱団

御坊少年少女合唱団は、子どもたちに音楽の素晴らしさや楽しさを伝えたいとの思いから昭和55年に結成された。活動を通して子どもたちの主体性や協調性を育むとともに、お互いを思いやる気持ちや合唱を聴いてくれる方に対する感謝など人間的な成長も視野に入れ活動に取り組まれている。保護者も子どもたちの活動の姿を見て、音楽の楽しさや子どもの成長を知ることができ、こ

うした取り組みが長年の活動の源泉となり、41年もの間活動されている。

現在の団員は、4歳から20歳までの28名で、歌好き、合唱好き、舞台好きなメンバーが集まる。練習はとても楽しく賑やかで、学校や年齢を越えて垣根なく子どもたちが交流している。これまでの主な活動として、平成9年、24年、29年に文化の国体といわれる国民文化祭において「合唱の祭典」に出場され、今年度も和歌山県で開催される国民文化祭にも参加した。

自主活動としては、御坊市民文化会館で年1回定期演奏会を開催されており、昨年度には第40回定期演奏会を開催し、世界的な作曲家・ピアニストのなかにしあかね先生に40周年記念作品として作曲を委嘱、「同声二部合唱とピアノのための物語組曲『ディックとねこ』」を世界で初めて演奏された。このほか地域イベント、病院や介護施設等でのミニコンサートなどにも積極的に参加されるなど、地域活動も大切にされており、合唱団の演奏を聴いた住民から、「子どもたちが元気いっぱい歌う姿を見て、元気をもらっています。」という声をもらっている。このように、長年にわたり合唱を通じて、地域文化の向上に貢献されました。